

- 問1 沖縄県の農業は、温暖な気候を活かした亜熱帯農業が特徴です。農業産出額の品目別割合を示した統計において、さとうきびなどの工芸作物を含む項目の割合が約40パーセントに達し、全国的に見ても独自の構成となっています。この項目に含まれる、沖縄県で生産が盛んな代表的な工芸作物はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. さとうきび 2. 茶 3. 野菜 4. 稲 (米)
- 問2 九州地方には多くの火山が分布していますが、その地下にあるマグマの熱を利用して電気を起こす発電方式を何とといいますか。二酸化炭素の排出が少なく、持続可能なエネルギー源の一つとして注目されている名称を答えなさい。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
1. 太陽光発電 2. 風力発電 3. 地熱発電 4. 水力発電
- 問3 かつて官営八幡製鉄所を中心に鉄鋼業の拠点として発展した福岡県北部の港周辺では、大きな産業構造の変化が見られます。1970年と2015年の輸出品目を比較した資料によると、1970年には鉄鋼が輸出額の第1位でしたが、2015年には半導体等電子部品が第1位となっています。このような特徴を持ち、周辺では工場跡地の再開発によってテーマパークなども建設されている港はどこですか。 (2017年 東京都公立入試 類似)
1. 名古屋港 2. 富士港 3. 成田国際空港 4. 北九州港
- 問4 日本の諸地域を学習する際、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の七つの地方区分が用いられることがあります。宮崎県を含むこの地方区分に基づいたとき、宮崎県と同じ区分に属する県の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
1. 熊本県・徳島県 2. 広島県・岡山県 3. 福岡県・鹿児島県 4. 愛媛県・香川県
- 問5 那覇市などの地方中心都市において、夜間の常住人口よりも昼間の人口の方が多くなる現象が見られます。ある統計によると、那覇市の夜間人口は約31.9万人ですが、昼間人口は約35.0万人に達しており、昼夜間人口比率が100%を大きく上回っています。このような現象が起こる主な要因として最も適切な説明を選んでください。 (2018年 沖縄県公立入試 類似)
1. 中心部での地価高騰を避けるため、夜間だけ市外の宿泊施設を利用する人が多いため 2. 周辺の市町村から、仕事や学びのために多くの人々が通勤・通学してくるため 3. 出生率が高く、年少人口の割合が他の市町村に比べて著しく高いため 4. 県外や海外から訪れる多くの観光客が、日中に市内の観光スポットに滞在するため
- 問6 日本の農業における小麦生産について、2018年の収穫量統計において1位の北海道に次いで、2位、3位、9位といずれも全国トップ10にランクインしている九州地方の3つの県の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2021年 長野県公立入試 類似)
1. 福岡県・佐賀県・熊本県 2. 佐賀県・滋賀県・茨城県 3. 愛知県・群馬県・滋賀県 4. 福岡県・愛知県・静岡県
- 問7 九州地方の宮崎県から鹿児島県にかけての南部一帯に広がる、過去の巨大な噴火によって噴出した火山灰などが積み重なって形成された台地を何と呼びますか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 根釧台地 2. シラス台地 3. 武蔵野台地 4. 牧ノ原
- 問8 九州・沖縄地方の産業構造について、人口密度が約632.7人/km²で、第3次産業の割合が約80.7%と極めて高い数値を示す県があります。この県の第3次産業がこれほどまでに高い割合を占めている背景として、最も適切な説明を選択してください。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. 亜熱帯の気候や独自の文化を活かした観光業が、県の経済を支える中心となっているため 2. シリコンアイランドと呼ばれ、IC (集積回路) の生産工場が沿岸部に集中しているため 3. 広大な平野を利用した大規模な稲作が行われ、農産物の加工業が発展しているため 4. 鉄鋼業や化学工業などの重化学工業が古くから発展し、第2次産業を牽引しているため
- 問9 鹿児島県の農業についてまとめた資料の中で、広大な台地を利用して茶の栽培や畑作、畜産が盛んに行われている背景として説明される、この土地の成り立ちはどのようなものですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. 過去の巨大な火山活動による火砕流などの噴出物が堆積した 2. 森林を大規模に伐採し、人工的に土を盛り土して造成した 3. 河川が長年かけて山から土砂を運び、平坦な土地を形成した 4. 地殻変動によって海底が押し上げられ、平らな台地となった
- 問10 宮崎県の農業や地形的特徴に関する説明として、背景や現状を正しく述べたものはどれですか。 (2020年 滋賀県公立入試 類似)
1. リアス海岸の入り江を利用した真珠やカキの養殖が産業の柱であり、内陸部の畜産業は県北の一部に限られている。 2. 広大な平野部を利用した稲作の単作地帯であり、米の生産量が県内農業産出額の大部分を占めている。 3. 夏の冷涼な気候を活かしたキャベツやレタスなどの高原野菜の栽培が中心であり、畜産業は小規模に留まっている。 4. シラス台地が広がり水持ちが悪い土地を活かして、食用鶏などの畜産業や、温暖な気候を利用した茶の栽培が盛んに行われている。
- 問11 13世紀に起こった元寇において、朝鮮半島から九州の博多湾を目指した元軍が、九州へ上陸する前に経由・侵攻した、九州の北西に位置する島を選択してください。 (2018年 三重県公立入試 類似)
1. 対馬 2. 壱岐 3. 淡路島 4. 種子島
- 問12 九州地方の各県の発電構成を比較した統計において、火力発電量が約13,500百万kWhと非常に多く、水力や風力も利用されている一方で、特定の集計区分によって地熱発電の数値が「0」と示されている県はどこですか。 (2026年 秋田県公立入試 類似)
1. 福島県 2. 秋田県 3. 鹿児島県 4. 大分県
- 問13 沖縄県は九州の南方に位置し、日本の他の地方と比較して緯度が低いという特徴があります。このような地理的条件によってもたらされる「年間を通じて温暖な気候」や「美しいサンゴ礁」といった自然環境を最大限に活用し、県の経済において最も高い割合を占めている産業はどれですか。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
1. 先端技術の開発や情報通信に特化した第四次産業 2. 農業や漁業を主体とする第一次産業 3. 観光業やサービス業を主体とする第三次産業 4. 重化学工業や加工貿易を主体とする第二次産業

答え合わせ・解説

問1	答え 1 さとうきび	沖縄県は年間を通じて温暖な亜熱帯気候に属しており、他の都道府県では栽培が困難な作物が中心となっています。特に、砂糖の原料となる「さとうきび」は、加工を目的として栽培される「工芸作物」に分類されます。沖縄県ではこの工芸作物の産出額が非常に大きく、統計上でも大きな割合を占めているのが特徴です。一方で、水資源の確保が難しい島嶼部の特性などから、稲作の割合は極めて低くなっています。
問2	答え 3 地熱発電	日本は世界有数の火山国であり、地下のマグマの熱を利用して蒸気を取り出し、タービンを回して発電する仕組みが各地で導入されています。これは再生可能エネルギーの一つであり、天候に左右されにくい安定したエネルギー源として、環境負荷の低減にも貢献しています。
問3	答え 4 北九州港	福岡県北部に位置するこの地域は、明治時代の官営八幡製鉄所の操業開始以来、北九州工業地帯の中核として日本の重化学工業を支えてきました。しかし、時代の変化とともに産業の主役が鉄鋼業から半導体や医療機器などの高付加価値製品へと移り変わっており、これを産業構造の変化と呼びます。広大な工場跡地はスペースワールド（現在は閉園し、新たな施設へ移行）などのテーマパークや商業施設に活用される再開発が行われてきました。
問4	答え 3 福岡県・鹿児島県	宮崎県は九州地方に分類されます。選択肢のうち、福岡県と鹿児島県はいずれも宮崎県と同じ九州地方に属する県です。愛媛県、香川県、広島県、岡山県、徳島県は中国・四国地方に分類されるため、宮崎県とは異なる地方区分となります。このように地方区分を理解することは、日本全体の地域的特徴を把握する上での基本となります。
問5	答え 2 周辺の市町村から、仕事や学びのために多くの人々が通勤・通学してくるため	県庁所在地などの中心都市には、官庁や企業、学校などが集中しています。そのため、夜間は周辺の住宅都市（ベッドタウン）で生活している人々が、日中になると「通勤」や「通学」のために中心都市へ移動します。この人々の「流入」により、中心都市では昼間人口が夜間人口を上回ります。一方、隣接する豊見城市のように、昼夜間人口比率が100%を下回る自治体は、住民が市外へ働きに出る「流出」側であることを示しています。観光客の移動は一時的なものであり、国勢調査に基づく昼間人口の定義（常住人口に出入管理される通勤・通学者を加減したもの）とは異なります。
問6	答え 1 福岡県・佐賀県・熊本県	九州地方は北海道に次ぐ小麦の主要な産地であり、2018年の統計では福岡県が全国2位、佐賀県が3位、熊本県が9位となっています。選択肢に含まれる愛知県、群馬県、滋賀県なども小麦の生産が行われていますが、九州地方に属するのは福岡県、佐賀県、熊本県の3県です。九州地方では水田の裏作（米の収穫後、同じ田で別の作物を育てること）として小麦の栽培が盛んに行われてきた歴史的背景があります。
問7	答え 2 シラス台地	九州南部に分布するこの台地は、火山の噴出物が厚く堆積してできました。粒子の細かい火山灰層は水はけが非常に良すぎるため、古くから稲作には向かない土地とされてきました。そのため、サツマイモや茶などの畑作、あるいは肉用牛や豚などの畜産業が盛んに行われています。
問8	答え 1 亜熱帯の気候や独自の文化を活かした観光業が、県の経済を支える中心となっているため	人口密度が約632.7人/km ² で第3次産業の割合が80.7%というデータは、沖縄県の特徴を示しています。沖縄県は美しい海や温暖な気候、首里城に代表される独自の歴史的背景を活かした観光・サービス業が非常に盛んであるため、他の産業に比べて第3次産業の割合が突出して高くなっています。
問9	答え 1 過去の巨大な火山活動による火砕流などの噴出物が堆積した	九州南部に広がるシラス台地は、約3万年前の始良カルデラなどの巨大噴火によって噴出した火山灰や火砕流が厚く積み重なってできた地形です。このように火山噴出物が起源であるため、稲作に必要な栄養分や保水力に乏しいという特徴がありますが、現在はスプリンクラーなどの灌漑施設の整備が進み、大規模な畑作地帯となっています。
問10	答え 4 シラス台地が広がり水持ちが悪い土地を活かして、食用鶏などの畜産業や、温暖な気候を利用した茶の栽培が盛んに行われている。	南九州に位置する宮崎県や鹿児島県には、火山灰が堆積してできたシラス台地が広く分布しています。シラス台地は水はけが良すぎて稲作には不向きであったため、古くから畑作や畜産業が発展してきました。宮崎県ではこの土地条件を活かし、食用鶏（ブロイラー）や豚、肉用牛などの畜産が全国屈指の規模で行われており、さらに温暖な気候を利用した茶の生産も全国4位の規模を誇るなど、独自の農業形態を築いています。
問11	答え 1 対馬	この島は地理的に朝鮮半島と九州の間に位置しており、古くから大陸との交流の要所でした。鎌倉時代の元寇（文永の役・弘安の役）では、博多に押し寄せる元軍が最初に攻撃を仕掛けてきた場所として、歴史上重要な役割を果たしています。
問12	答え 4 大分県	大分県は、日本最大級の地熱発電所である八丁原発電所があることで有名ですが、統計の集計区分や資料の特性（一般送配電事業者が把握する分のみの集計など）によっては、自家発電分が主となる地熱発電が「0」や極めて少ない数値として扱われることがあります。一方で、大分市周辺には大規模な工業地帯が形成されているため、工場に電力を供給するための火力発電量が突出して多くなるという特徴があります。
問13	答え 3 観光業やサービスを主体とする第三次産業	沖縄県は低緯度に位置するため、冬でも気温が下がりにくく、一年を通して温暖な気候に恵まれています。この気候やサンゴ礁が広がる海などの豊かな自然資源は、観光客を引きつける大きな魅力となっています。その結果、宿泊業や飲食業、小売業などのサービス業を含む第三次産業が、県内の就業者数や生産額において極めて高い比率を占める産業構造となっています。